

# 高野将司

## 特別取材



今春から学生コーチになり、選手を陰で支える高野将司(学生コーチ(禰4))。専大2回戦で逆転打を放った山下高久雅法(3)が「打つたのは高野さんのおかげ」と、真っ先に話すなど、選手からの信頼は厚い。ラストシーズンもいよいよ終盤。ここまでの野手について振り返り、選手への思いを聞いた。

**高野**：ここまでの野手を見て、どう思いますか？  
**高野**：常々やってきたことが試合できていたので、状態としてはそんな悪くないと思います。  
**高野**：指導をする時、どんなことに気をつけてやっていますか？  
**高野**：所詮学生なので、別にコーチっていう自覚もあんまり。深くは持たなくて、ノック打つにしても、ブルペンとか入ってキャッチャーするにしても、ベンチの中でも元気だけは。って感じではやっていきます。  
**高野**：元気とは？  
**高野**：ノック打ってもらう側にしても、ノッカーの人がシーンって感じで打つても、捕る方も投げる方も、笠間とかが言っている「激しく」とかは矛盾になっちゃうじゃないですか？だから何を

## ～共に戦う学生コーチ～

するにしても、僕自身も激しくやるように感じてですね。  
**高野**：選手から個別に頼まれて、付きっきりで取り組むこともありますが、どうなんでしょうか？  
**高野**：勝つためには必要なことだと思うので。うーん、僕がやるべきことは、やれることはこれしかないと思ってるので。別にあんまりそんな：考えていないです。  
**高野**：教えた選手が成果を出してくれた時、どんな気持ちですか？  
**高野**：ふと：試合が終わって寮で一人になった時に、良かったな、と思うことは多いですね。  
**高野**：ここまでの試合でそう思ったことはありましたか？  
**高野**：山下が専修戦でレフトアウトバー打った時は、良かったなと思いましたね。  
**高野**：コーチとして、嬉しいと感じるのはどんな時ですか？  
**高野**：うーん、やっぱり、最終的には1部に上がった時ですかね。  
**高野**：今は何かありますか？  
**高野**：試合が終わって、山下とか笠間とかに「お前のおかげだよ」とか言ってくれると実感が：少しは。  
**高野**：特に仲がいい選手は？  
**高野**：誰だろう：笠間……。結構幅広く付き合っているんで僕は。誰ですかね？笠間、岡、山下、島、民法：うん、そのくらいですかね。  
**高野**：客観的に見て、今季成長を感じる選手はいますか？  
**高野**：白崎浩之です。3番に打順を上げてもどつしりとしてきたところがあると思います。

……。結構幅広く付き合っているんで僕は。誰ですかね？笠間、岡、山下、島、民法：うん、そのくらいですかね。  
**高野**：客観的に見て、今季成長を感じる選手はいますか？  
**高野**：白崎浩之です。3番に打順を上げてもどつしりとしてきたところがあると思います。

**高野**：ここ最近、2年生が活躍していますが、どう見えますか？  
**高野**：来年少級生にもなるので、もし3年生がまた、結果の出ない時が来ても、2年生が今の状態だったら心配はないと思います。  
**高野**：では3年生は？  
**高野**：やっぱり4年生と違って人数が多い分、横のつながりが今以上に大事だと思うので、残り少ない日数で4年生が残せるものがある。3年生もそこを感じられるので。3年生もそこを感じられるので。3年生もそこを感じられるので。3年生もそこを感じられるので。  
**高野**：同期の4年生はいかがですか？東農大戦は笠間選手、北島選手が大活躍でしたが……。  
**高野**：そうですね。4年が打つとチームの雰囲気は良くなるのかな、とは思っています。  
**高野**：立正戦のキーマンとなる選手は、誰だと考えますか？  
**高野**：北島がずっと打ってなくて、この後半戦にかけて、ホームランも打って、今打席には入りやすい状態だと思うので、僕は北島がキーマンというか、打つんじゃないかなって思います。  
**高野**：残りのラストシーズンに対して、何か強く思うことはありますか？  
**高野**：今、けが人だとか、ベンチ入ってない1・2・3年生に、新チームになってもまだけがが続いていたり、メンバーに入れなかったりする選手が絶対いるので。そういう風に陥った時に、去年の4年生はこうだった、みたいな姿で残せたらいいなと思います。  
**高野**：では最後に、一言意気込みをお願いします。  
**高野**：1部にかえります！

# HEROES 笠間将裕 ①



「昇格しか見ていない」。そう語るのチームをけん引する主将・笠間将裕(商4)。4カード目の東農大戦は、優勝の可能性を揺さぶる天王山。そこで勝利を呼び込んだのは、主将の存在であった。  
笠間は、今春の打率は.357と東都2部リーグで5位、駒大では2位と好成績を残していた。だが今季(3カード目まで)の打率は.227と振るわず、一時は打順9番に落ちた。「打たなきゃいけないのに情けない」と、自らの成績不振を悔んだ。だが、大事なこの天王山で本領を発揮した。  
落とせない1回戦、一進一退と大激戦の攻防を強いられる。しかし終盤の8回、駒大らしい「粘り強さ」が出た。それが主将の一発だった。フルカウントまで粘ると、試合を決める3点本塁打を左翼スタンドへとぶち込んだ。  
正念場で放った本塁打。笠間はガッツポーズを見せ、笑顔でダイヤモンドを回った。同期の森田哲平(営4)は「笠間がいつも練習しているところを見ていたから素直に嬉しかった」と、ともに喜びを分かち合う。エースも「僕が調子悪いのを笠間さんはわかってくれていて、そんな人が点を取ってくれたんだから、絶対に点をやらない気持ちだった」と、主将の存在がチームを一つにしていた。試合後、笠間は勝利にほっと胸をなでおろした。しかし、「次勝たなきゃ意味がない」とすでに次戦に目を向けていた。喜びよりも、次の勝利を見据える姿はやはり主将らしい。  
開幕戦から3連敗するも、笠間は「本当に可能性がある限り、自分はこのチームを信じて試合をするだけ」と強い気持ちで試合に臨んできた。ラストシーズン、なんとしても1部に復帰したい。仲間を信じ続ける主将の広大な背中、チームを引っ張り、念願の神宮へと目指す。(菊池美紀)



どうしても1部に上がって終わりたい